

経験を積みながら、自分の技術を「帽子職人」の域まで高めたい



**経験を積みめば積むほど
帽子の縫製の難しさを実感**

今の仕事はクライアントに納品する本製品の縫製と、製品になる前のサンプルの作成。
「帽子を縫う」と言っても、そのカタチや生地、伸縮性によって、難易度がまったく違います。どう縫製すればいいかわからない時は、社外の帽子職人さんにコツを聞くこともありますね。また、本製品の縫製は、キレイに仕上げるだけでなく、スピードも大事。社長や他のスタッフの手元を見ながら、効率的な動きを身につけるようにしています。帽子の縫製は特殊な上、帽子職人さんの数も少ないため、自分から積極的に学ぶ姿勢がないと上達できません。教えてもらうのではなく、「盗む」くらいの気持ちが必要だと思います。

**デザイン十機能性の追求。それが
ワーキングキャップ作りの魅力**

製品になる前のサンプル作成は、本生産の縫製とは違う難しさがあります。お客様からイメージ図や



営業は社長の娘さんと取締役の矢田敦子さんが担当。サンプルができあがったら、チェックしてもらいます（写真右が矢田敦子さん）

要望をいただき、それに合わせたサンプルを型から作っていくのですが、ワーキングキャップは機能性も大事。例えば、動きの激しい清掃会社の場合は、通気性が重視されますし、食品製造工場の場合は、ほつれ糸が出ないようにつまみ止めが必要。また、飲食店で使われるハンチング帽の場合、女性の長い髪が入るよう、後ろの部分を膨らませて欲しいというオーダーも。デザインと機能性、そして量産を考慮してサンプルを作るのは苦労も多いですが、「ものを作る」という感動がダイレクトに感じられます。自分が作ったワーキングキャップを、街やお店で見かけた時はわくわくしますね。時にはCMやドラマの中で見かけることも。映るのは一瞬でも、自分が作ったものだから、すぐ気がつくんです。



帽子の縫製に使う道具は、ミシンやはさみ、定規、生地を留めるピンなど、シンプルなもの。ここから多彩なデザインの帽子が生まれています

**下町ならではのアットホームな
雰囲気の中で「ものづくり」**

「人の生活に根ざしたものを作りたい」と思ったのが、今の仕事に就くきっかけでした。
以前の仕事は、デジタル機器などのマーケティング調査。商品の開発支援に関わることも楽しかったけれど、「もっと身近なものを作りたい」という気持ちが出てきて、勇気を出して会社を辞め、都立職業能力センターで縫製とパターンを学びました。この会社で働きたいと思った一番の理由は、職場の雰囲気ですね。もともと下町の温かさを感じる町工場で働くことに憧れがあったんです（笑）。また、服の縫製に比べて帽子はサイズが小さく、工程も少ないため「一人ですべて全部」作ることができる。作る楽しさを実感できることも魅力でした。

**「今」がんばって身につけたことが
「未来の自分」のためになる**

今の目標は、技術を「職人」の域まで高めること。そのために、難しい帽子の縫製など、いろいろな経験を積みたいたいと思っています。また、業務効率化のため帽子の「型」のデータ化も進めたいですね。以前はまったく別の仕事をしていましたが、その時に身につけたスキルや経験が今も活かしていると実感します。例えば、今は自分のやりたいことが見えていない人でも、「今をしっかりとがんばる」ことが、必ず将来の自分のためになります。

有賀さんのお仕事とは？

縫製（ソーイングスタッフ）

服や小物、帽子など布製品の縫製を専門に行う仕事。パターン（型紙）にあわせてカットされたパーツの縫製、仕上げ検品などを行い、製品を完成させる。また、製品の縫製以外に、サンプル縫いをすることもある。生地の特徴にあわせて縫製する技術だけでなく、気配りの細かさも求められる仕事だ。アパレルメーカーなどの縫製工場で働くのが一般的だが、メーカーから仕事を委託され、「縫製職人」として自宅で仕事をする場合もある。

有賀さんの とある1日のスケジュール

- 6:30 起床
身支度をして、7:30頃に出発
- 9:00 始業
朝礼の後、午前の業務開始
サンプルや仕様書の作成、製品の縫製などを行う
- 12:00 昼食
昼食は毎日、職場のみんなと一緒に食べる
- 13:00 午後の業務スタート
- 15:00 お茶の時間
全員でテーブルを囲んで雑談しながらお茶を楽しむ
10分のプレイクタイム
- 17:50 退社
肩こり解消のため週1回、ヨガに通っている
- ※繁忙期には1時間ほどの残業をすることも
- 19:20 帰宅
- 20:00 食事・入浴・趣味の時間
趣味は服や小物を作ること
- 23:00 就寝

矢田製帽有限公司

墨田区亀沢1-19-6
TEL 03-3622-1050

昭和8年から帽子の生産をスタート。昭和52年、矢田製帽有限公司を設立。婦人用帽子を中心に、スポーツキャップの生産を手掛ける。平成元年から、ワーキングウェアの一部である「ワーキングキャップ」の生産に進出。平成7年からは、国内生産だけでなく、中国・ベトナムでの大量生産化を開始。現在は、パン・洋菓子店や飲食店、ガソリンスタンドなど、幅広い業種のワーキングキャップのサンプル作成から生産までを行っている。

取材しました！



職場の様子を楽しそうに話す有賀さんの話を聞き、条件だけでなく、自分の個性に合った職場を見つけることが大切だと気づきました。